

日産車体株式会社

個人投資家向け会社説明資料

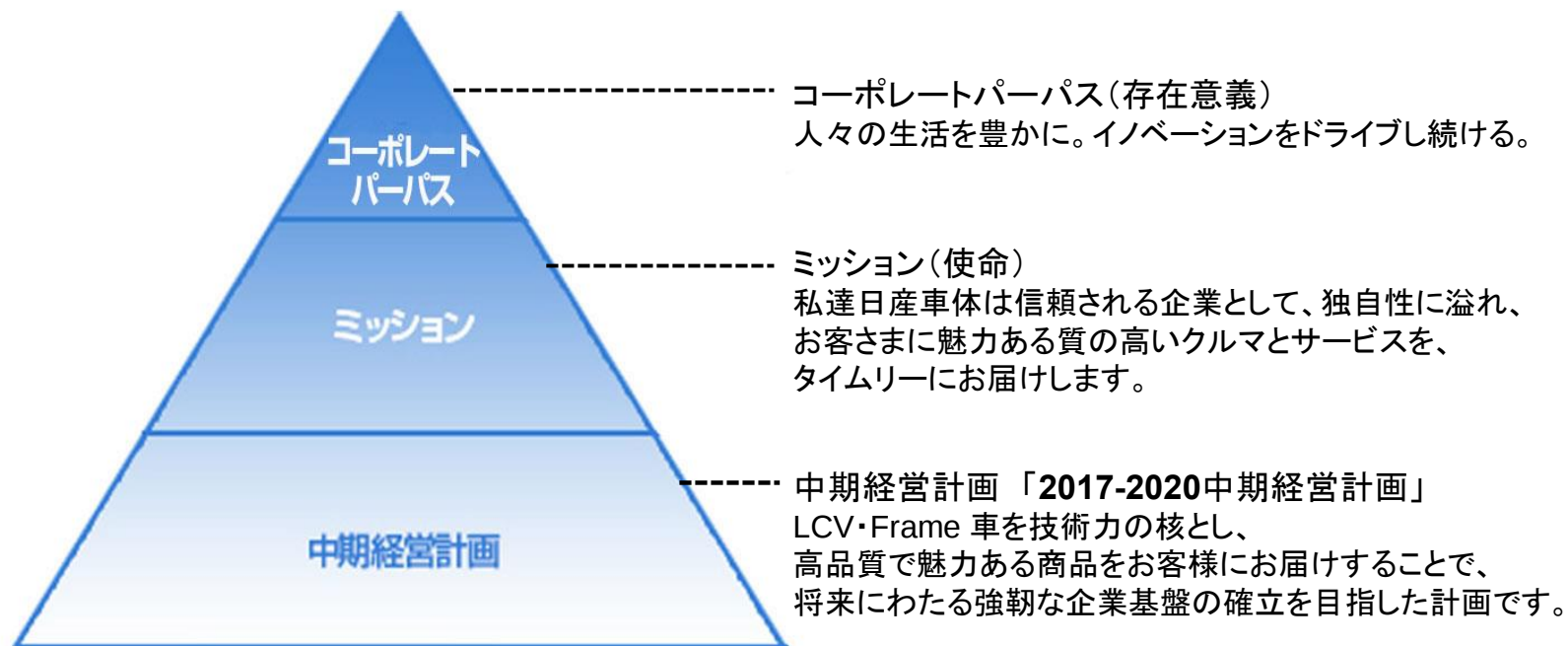
日本のモノづくりを世界へ



2021年5月

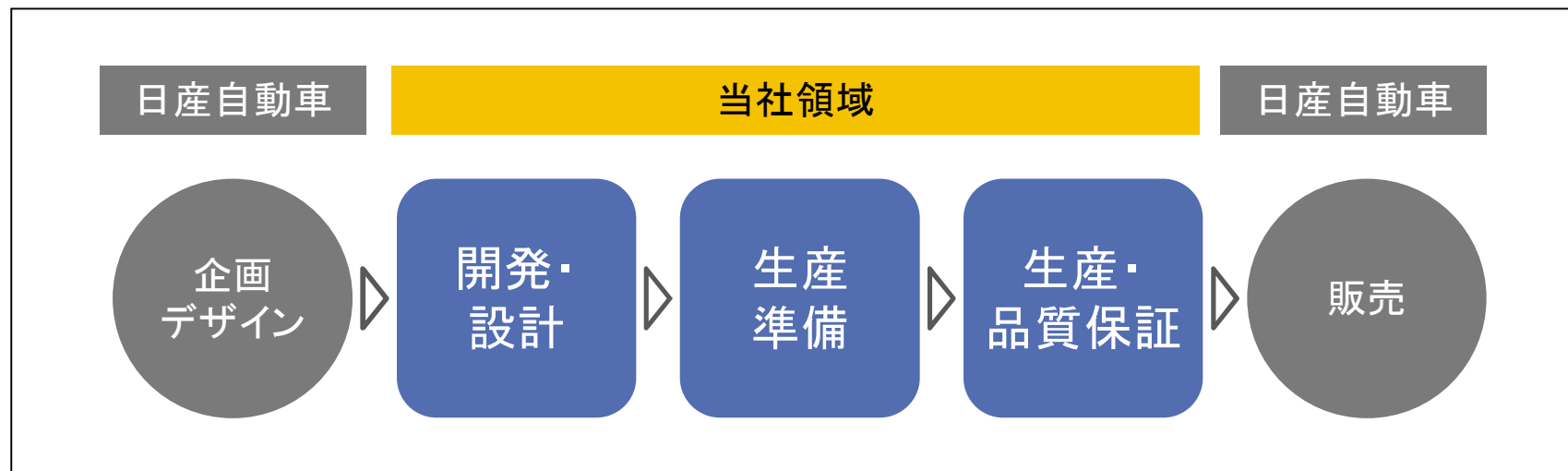
理念体系

2021年4月にコーポレートパーパス
「人々の生活を豊かに。イノベーションをドライブし続ける。」を制定。



Outline

日産車体は、
開発から生産までを担う完成車メーカーです



日産グループの中で「LCV・フレーム車」の分野を中心に、
グローバルに活躍する完成車メーカーとして事業を展開しています

LCV: Light Commercial Vehicleの略。小型商用車

フレーム車:トラックやバスに採用される頑丈な梯子フレームにパワートレーンなど走行機能搭載し、その上にキャビンを搭載する構造の車。当社製品:大型SUVのパトロール、インフィニティQX80,小型トラックのパトロールピックアップ、アトラスF24、マイクロバスのシビリアン

グループのご紹介

日産車体グループ

湘南工場と日産車体九州の2つの生産拠点が主軸です

	日産車体(株)	日産車体九州(株)
設立	1949年	2007年
事業内容	各種自動車の開発から 品質保証まで	自動車および その部分品の製造・販売
従業員数	1,768名	1,116名
生産拠点	神奈川県平塚市	福岡県苅田町

(2021年3月31日現在)

湘南工場



日産車体九州工場



グループ会社

日産車体マニファクチャリング株式会社

- ▶ 日産車体のプレス部品の製造

日産車体エンジニアリング株式会社

- ▶ 日産車体および日産車体九州の設備保全と物流



株式会社 オートワークス京都

- ▶ マイクロバスとトラックの製造と特装車の架装

日産車体コンピュータサービス株式会社

- ▶ 情報システム構築、ネットワーク構築などのIT関連サービス



株式会社 プロスタッフ

- ▶ 人材派遣から職業・人材紹介および各種アウトソーシング

沿革

2019年7月にパトロール(Y62)2020モデル生産開始

年 月	社 歴
2019年	7月パトロール(Y62)2020モデル生産開始
2018年	パラメディック(E26)発表
2016年	6月、日産車体九州で北米向け大型SUVの「新型アルマーダ」生産開始
2014年	3月、新本社を第2地区に竣工・湘南再編完了
2012年	湘南工場第1地区での車両生産を終了、湘南工場第4地区での車両生産を第2地区へ集約、湘南工場の車両生産体制の再編を完了
2010年	日産車体九州稼働開始
2007年	子会社「日産車体九州株式会社」設立／生産累計1,500万台達成
1992年	生産累計1,000万台達成
1951年	日産自動車(株)と提携
1949年	当社前身 新日国工業(株)設立

▶ 高級ブランド「インフィニティ」を生産
(日産車体九州)



インフィニティ QX80

▶ LCVでグローバル展開をリード



NV200 NY市 タクシー提案モデル

▶ ミニバンで現在の基礎を構築



▶ 日産車体のルーツを作ったフェアレディZ



グループのご紹介

主な生産車

湘南工場



NV200
VANETTE
NV200 バネット



AD
AD



PATROL
パトロール : Y61



PATROL PICKUP
パトロール ピックアップ



Infiniti QX80
インフィニティ QX80



PATROL
パトロール : Y62



ARMADA
アルマーダ



ELGRAND
エルグランド



CARAVAN
NV350
NV350 キャラバン

日産車体九州

オートワークス京都



CIVILIAN
シビリアン



ATLAS
アトラス F24



PARAMEDIC
パラメディック

特長

完成車メーカーとしてのDNAを活かした、 多くの特長を持っています

湘南工場

LCVを中心とした多車種少量生産の
一大拠点



▶ モノコック車



▶ フレーム車

日産車体九州

厳しい品質基準をクリアし、日産のラグジュアリーブ
ランドである「Infiniti」の生産を許されている工場



▶ ローラーヘミングによるエンジンフードの生産



▶ 新塗装技術

特装車

グループ内での一貫生産により、高品
質な特別仕様車をスピーディに提供



2020年度 連結決算概況

2020年度 通期決算

2020年度の出来事と主な成果

【全ての活動を支える経営基盤の強化を推進】

新型コロナウイルス感染症が拡大する状況においても、当社主力製品の商用車・特装車は各産業や公共サービスに欠かせないことから、感染予防を徹底したうえで生産運営を継続。

[1] 商品の競争力(魅力ある商品による生産台数と売上の拡大)

- 外観変更に加え先進安全装備を充実させた新型エルグランドの生産を開始
- NV350キャラバンの特別使用車 プレミアムGX BLACK GEARの生産を開始
- ナビゲーションを大型化し、外観を変更したアルマーダのマイナーチェンジを実施

[2] 工場の競争力(品質No.1, お客様から信頼される工場)

- 2020年の品質調査で、アルマーダがラージ SUVセグメントにおいて、初期品質、商品魅力度共に一位を獲得

[3] 技術・技能の競争力(LCV・Frame車ものづくりグローバル技術拠点の実現)

- LCV車特有の車体構造に特化した生産技術の開発
- 次世代のフレーム車に向け、必要な技術開発への取り組み

2020年度 通期決算

決算サマリー

緩やかな生産回復基調にはあるものの、感染症のまん延などにより、生産台数が大幅に減少し減収減益となる

売上台数

年度前半の大幅な減産が響き、26.3%減の13.4万台

売上高

台数の減少などにより27.3%減の3,628億円

営業利益

売上台数、モデルミックスの悪化による粗利益の大幅な減少により、94.8%減の4億円

親会社株主に帰属 する当期純利益

保有不動産の売却により特別利益が増加したものの、固定資産の減損損失の計上などにより、67.1%減の19億円

設備投資

新商品、マイナーチェンジによる商品力強化、生産設備の合理化及び諸施設の改善などの投資を中心に約68億円

2020年度 通期決算

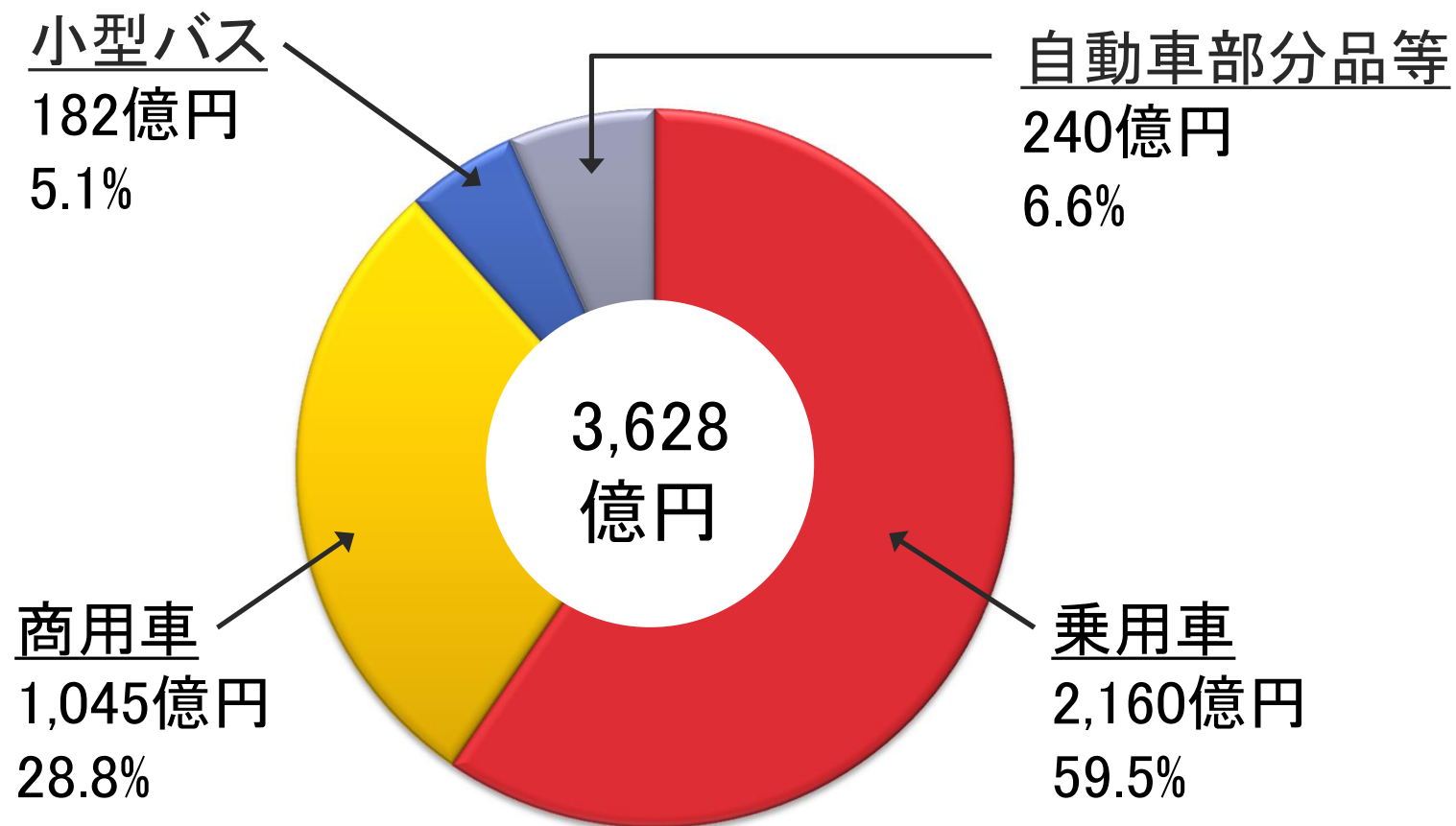
業績ハイライト

	2019年度 (2020/3)	2020年度 (2021/3)	増減額	増減率
売上高	4,988	3,628	▲1,360	▲27.3%
営業利益	93	4	▲88	▲94.8%
経常利益	98	19	▲78	▲79.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	58	19	▲39	▲67.1%

単位: 億円

2020年度 通期決算

品目別売上高構成比

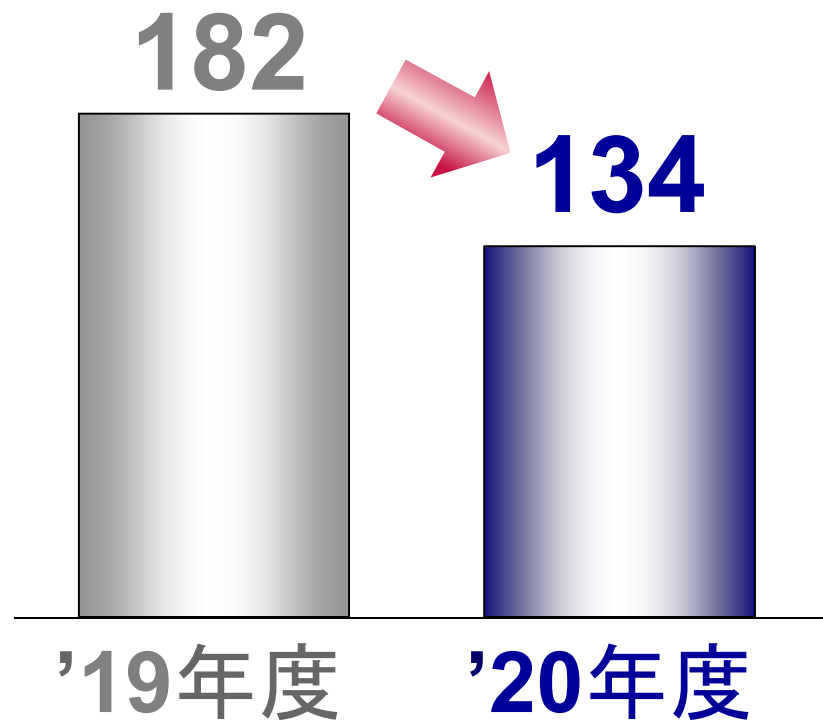


2020年度 通期決算

売上台数

緩やかな回復基調にあるものの、年度前半での大幅な減産により、
前年同期比26.3%減の134千台

(千台)



(千台)

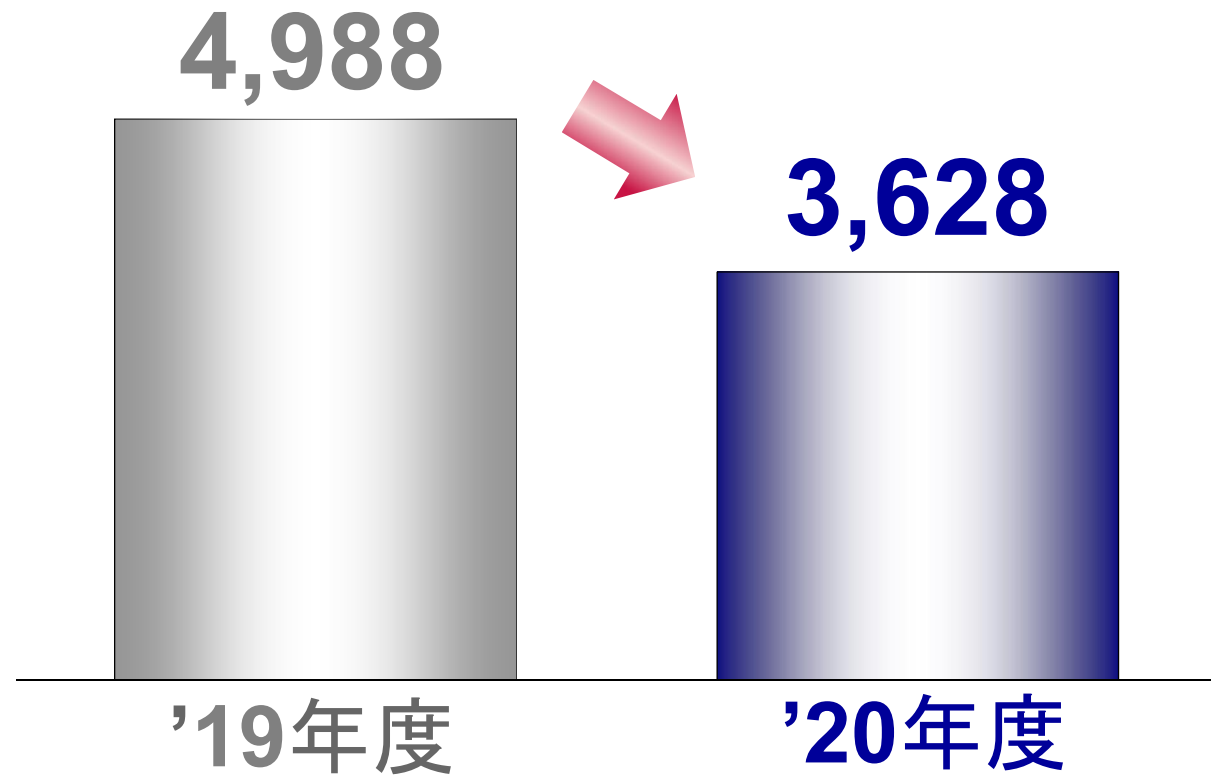
	前期実績	当期実績	増減率
乗用車	93	61	▲34.9%
商用車	67	66	▲2.4%
小型バス	22	8	▲62.6%
合計	182	134	▲26.3%

2020年度 通期決算

売上高

極めて厳しい経営環境の中、売上台数の減少等により、売上高は前年同期比27.3%減の3,628億円

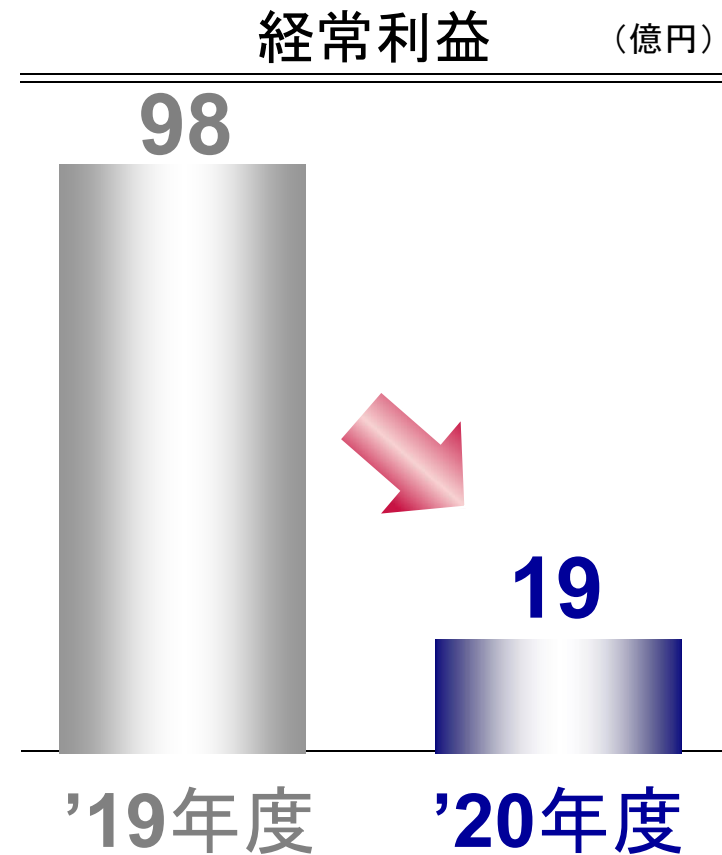
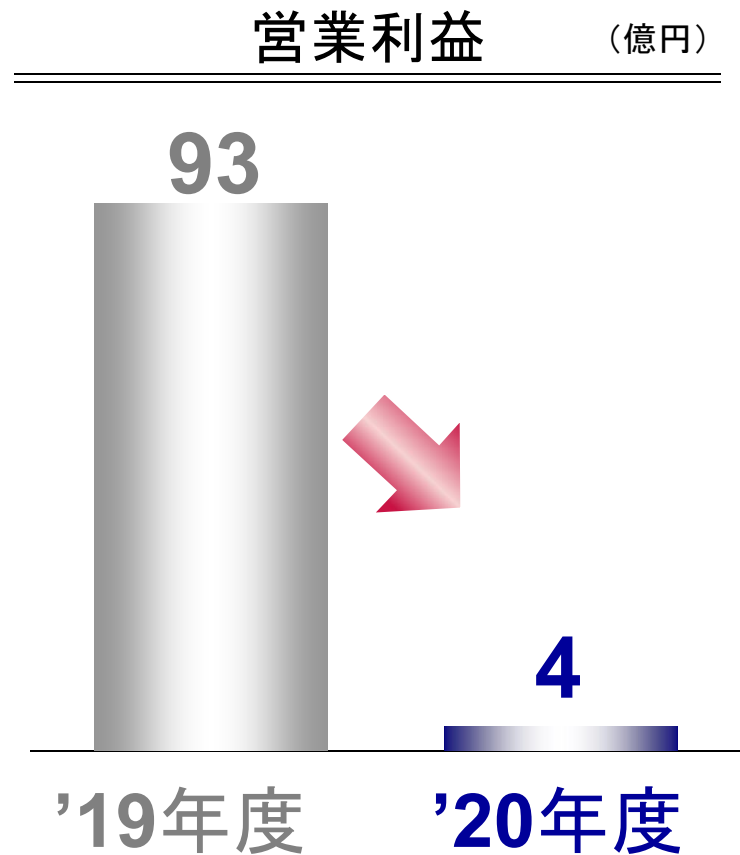
(億円)



2020年度 通期決算

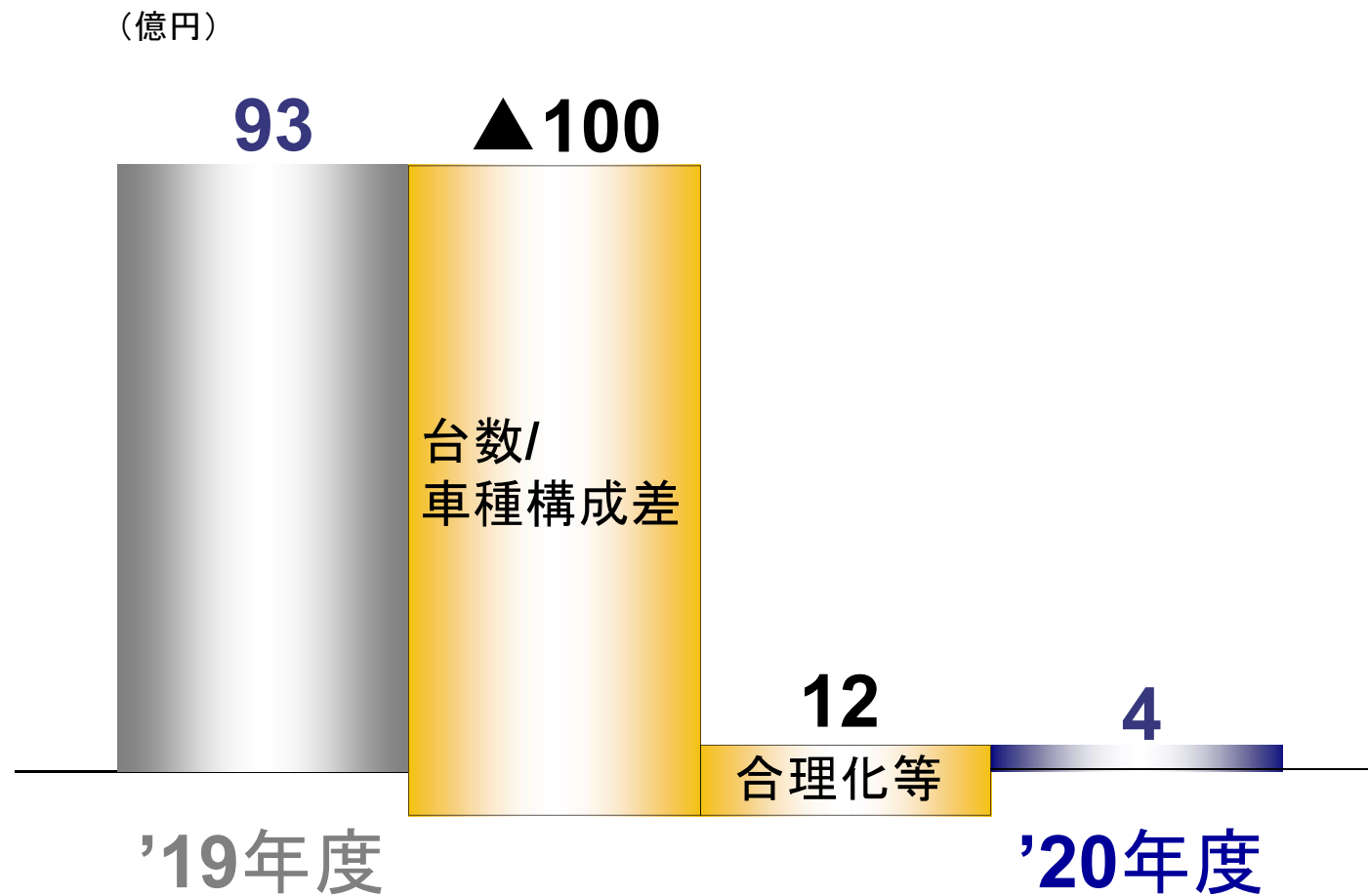
営業利益／経常利益

減収及びモデルミックスの悪化により、営業利益/経常利益とも前年同期を大幅に下回る



2020年度 通期決算

営業利益の増減要因

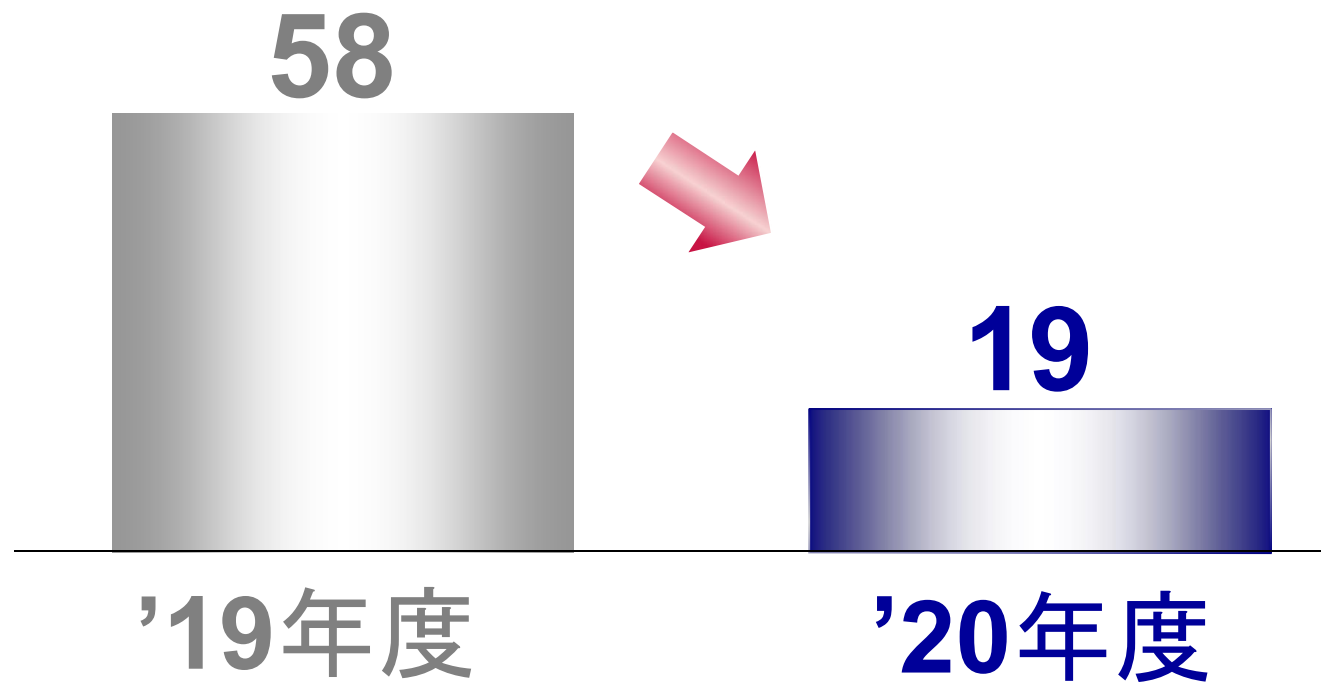


2020年度 通期決算

親会社株主に帰属する当期純利益

保有不動産の売却により特別利益が増加したものの、固定資産の減損損失の計上などにより、67.1%減の19億円

(億円)



2021年度 連結業績見通し

2021年度の主な取り組み

<取り巻く環境>

引き続き新型コロナウイルス感染症のまん延による消費マインドの低下や、世界的な半導体不足による生産活動の停滞が懸念されるなど、不透明な状況が続く

<主な取り組み>

[1] 商品の競争力(魅力ある商品による生産台数と売上の拡大)

- 新しい燃費・排ガス規制対応による、LCV各車の競争力向上に取り組む
- コンバージョンの売上拡大を目指す

[2] 工場の競争力(品質No.1, お客様から信頼される工場)

- 当社の強みである開発から生産まで一貫したモノづくり体制を活かし、品質、コスト、スピードの競争力向上に取り組む

[3] 技術・技能の競争力(LCV・Frame車ものづくりグローバル技術拠点の実現)

- LCV・フレーム車の将来を見据えて、必要な社会要件や商品競争力向上アイテム、先進ITS技術等の適用に向けた技術課題に取り組む

2021年度 業績見通し

2021年度の業績予想

引き続き新型コロナウイルス感染症のまん延による消費マインドの低下や、世界的な半導体不足による生産活動の停滞が懸念されるなど、不透明な状況が続くことが予想される。

	2020年度 (実績)	2021年度 (計画)	増減額	増減率
売上高	3,628	4,126	498	13.7%
営業利益	4	78	74	—
経常利益	19	84	65	328.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益(損失)	19	52	33	174.2%

単位:億円

株主還元

2020年度 1株当たり配当金

株主還元

継続的な安定配当を基本に、年間13円を予定

